



令和7年年頭のごあいさつ

塾頭 高橋 光雄

明けましておめでとうございます。

塾生、塾友はじめ皆さまにおかれましては、清々しいお気持ちで令和7年の年明けをお迎えになられたことと存じます。

昨年は元旦早々の能登半島地震と同地域の9月豪雨、山形・秋田の集中豪雨など、自然災害が多発し大きな被害をこうむりました。以前にも記しましたが、地殻の変動や火山活動による自然災害、温暖化による集中豪雨や砂漠化など、地球規模の変化が人類の生存基盤を危うくしているように見えます。また、10月に行われた総選挙では与野党が伯仲する結果となり、緊張した政治状況が強いられるようになりました。

他方、世界に目を転じますとロシアによるウクライナ侵略戦争に、ロシアの援軍として北朝鮮軍が参戦するなど新たな展開が生じており、予断を許さない状況となっております。中東ではイスラエルとハマスの紛争、師走になってからはシリアのアサド政権が崩壊し、同氏と家族はロシアに亡命したと報じられました。これらの紛争を起因として、エネルギー、食糧をはじめ諸物価の高騰が続いています。国境の壁を越えて人・物・金が自由に動けるといいう、紛争を想定しない（アメリカによる一極支配）グローバル化の

矛盾が噴出し、様々な分野における安全保障上の見直しが必要の課題となりました。

今年の干支は「乙巳」です。「伸び切った枝葉を糧にして、業火が起る年」といわれています。過去には「戦乱の開始や終結、政争・政変の開始や終結、社会変革のきっかけとなった出来事が目立つ」（ライフルホームズプレス、村上瑞祥氏）とあります。激流に対応しつつも呑み込まれないためには、自分の足元をしっかりと固めて、動揺することなく、平常心でいられる準備が必要になるということです。

昨年の塾活動では、毎月の研修会のほかに、松平定信公の墓前祭参加と渋沢栄一記念館見学、全国藩校サミットに合わせて、歴史小旅行も行われました。また、市内の月心院さん・万持寺さんのご協力を得て、座禅と朝がゆ会を実施することもできました。コロナ禍があり、活動の縮小や停滞を余儀なくされましたが、今年は読書会をはじめ徐々にその範囲を広げていきたいと考えています。

（公財）立教志塾の「立教」という二文字は、白河藩主松平定信公が開学した藩校「立教館」からいただいたものです。定信公は自ら制定した「立教館令条」に、その目的とするところを「人倫を明らかにし、風俗を正しくし、人材を長育する」と明示しました。私を含めて戦後教育で育った者が社会の大多数を占める今日、個の確立、人格の完成が、ややもすると摩擦や拘束のない全くの自由を求める軟弱な自己中心主義に陥っているように思われます。立教志塾に集い、若い人たちは焦らず、年配者ともども生涯学習を楽しみ、魅力ある時間を創っていきましょう。